

## 2 . 都立東京港野鳥公園

### 2.1 視察日時・場所

#### (1)日時

平成16年12月22日（水） 14:30～16:30

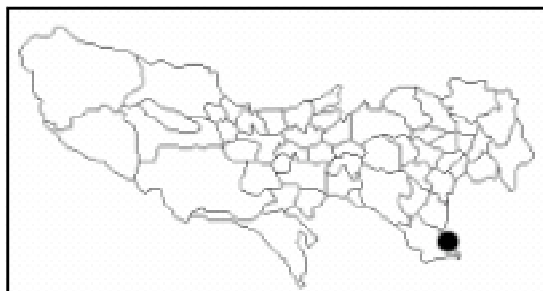
#### (2)視察場所

都立東京港野鳥公園

### 2.2 施設概要

#### (1)所在地

東京都大田区



施設の位置（東京都）



都立東京港野鳥公園とその周辺の状況

#### (2)施設目的

1960年代に埋立て事業が実施され、その後、埋立地に自然にできた池や草原に野鳥が集まるようになり、地域の方々が始めた、よみがえった自然を守る運動がきっかけとなって東京都は公園整備を決定。1978年に最初にできた大井第七埠頭公園は現在の西淡水池周辺部のみの公園（3.2ha）であったが、拡大開園という都民の要望により、1989年に現在の東京港野鳥公園（24.3ha）となった。

#### (3)整備年月

昭和53年（1978年） 大井野鳥公園として開園

平成元年（1989年）10月 東京港野鳥公園として開園

#### (4)施設整備状況

面積：26.6ha

建築物：ネイチャーセンター 1棟（1,724㎡）、自然学習センター 1棟（207㎡）

簡易建築物：観察小屋 4基、観察壁 4基、休憩舎 1基

自然観察路：自然観察路

鳥類生息空間：淡水・汽水池（5.1ha）、干潟（3.0ha）、自然生態園（小川、畑、水田）（6.0ha）、高茎草地（3.2ha）、樹林（7.8ha）、芝生広場（1.0ha）、その他（砂礫地、前浜干潟、湿地）

その他公園施設：管理棟 1棟（373㎡）、野外自動販売機棟 1棟、トイレ、駐車場

#### (5)管理運営

東京都港湾局海上公園課から（財）東京港埠頭公社へ管理を委託されている。また、調査指導等業務については、公社より（財）日本野鳥の会に再委託されている。

## 2.3 視察結果

### (1)野鳥等の生息環境の創出

#### 【環境及び利用への工夫・配慮】

- ・園内は野鳥の生息に配慮した整備内容となっており、淡水池、汽水池（潮入り池）、淡水泥湿地、及び広大な樹林を人工的に造成し、採餌場、休息場、ねぐら、営巣場などを創出。
- ・設計については、東京都からの依頼で日本野鳥の会が当時の鳥類相を調査し、確認された約80種程を想定して環境設定を行なった（設計には約半年、建設費用は約30億、構想には日本野鳥の会が関わり、検討委員会には専門の先生も参加）。
- ・東京湾の昔の風景をイメージしてヨシ原のカーブ等を設計に取り込んでいる。



淡水池(採餌・休息・営巣場)

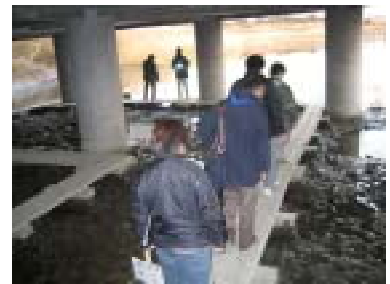


淡水泥湿地(採餌・休息場)

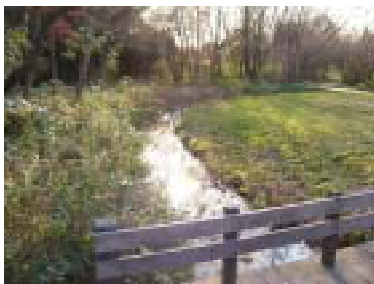


干潟・汽水池(採餌・休息場)

- ・工事施行後、最初の動物は移入（5年間くらいは適宜補充している。その後は自然にまかせており餌動物の管理はしていない）。
- ・野鳥観察の他、水辺の生物、カニをはじめとする干潟や磯場の生物の観察にも適した場所となっている。
- ・トビハゼの生息場所として泥質干潟を創出（満潮時には水没）。
- ・多様な環境を創出し、餌場・営巣場所など多くの種が利用できるように配慮。
- ・淡水池や小川、田畑や原っぱ、雑木林など、農村風景をモデルにした環境になっている。野鳥、カエル、メダカ、トンボなどが観察できる。
- ・自然生態園では田や畑を市民で体験させるイベントを開催（稲の選定、田植えから収穫まで）これによって餌場が創出される。



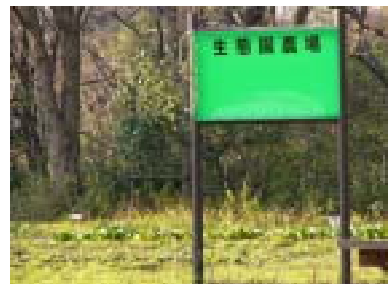
ハゼの生息場(泥干潟)



小川



田



野菜畑

- ・年間約120種は確認される（平成元年から14年までには203種が記録されている）。
- ・アジサシの繁殖場として設計した、東淡水池の砂礫地には最初6つがいのアジサシが営巣したがカラスの妨害等で繁殖成功率が悪く、利用しなくなった。またネイチャーセンター屋上にも山砂を入れてアジサシの繁殖場を創出したが利用はみられなかった。アジサシの繁殖は集団であれば外敵からの捕食圧にも対抗できるため、規模の大きい場所のほうを選好する。近くに大規模な営巣地があるため、園内であえて創出しなくても繁殖場所としては問題がないため、園内での繁殖誘致は断念した。
- ・アジサシの繁殖には面積的な問題があり、最低でも2haはないと難しいだろう



淡水池

元来は砂礫地でアジサシの繁殖場所として設計。繁殖成功率が低く、利用がなくなり現在はヨシで覆われる。



ネイチャーセンターの屋上

山砂を20cm厚で敷き詰めアジサシの繁殖場所を創出したが現在は利用されず現在は草本で覆われる。

#### <アジサシの大規模営巣地>

下水処理場の屋上（3ha）に最初そのまま産卵するつがいがでてきた。風で卵が転がったりして孵化率が悪かったが、スラッチライト(下水処理過程でできる土)と貝殻を割ったものを屋上に敷いたところ、今年は1,600羽の繁殖が確認された（敷く以前は600羽程度）。

スラッチライトは保湿性が高いため雑草が生えやすく、400～500人のボランティアによって草取りを行なっている。土の厚さは5cmで敷いてあるが、3cmでも十分だと思われる。

#### 【問題・課題】

- ・多様な環境を盛り込みすぎて、維持管理が大変である。
- ・ハゼの生息場(泥干潟)を造成したがうまくいかない。
- ・野犬やノネコが住みついており、園外へ追い出すなど対策を取っている。
- ・淡水池は雨水に頼っているため雨が降らないと枯れる（今年の夏は半分の面積でひび割れ）。また逆に雨が降りすぎて水位を下げたいときは放出する場所がない。オーバーフローして園外の道路に泥水が流出し、苦情がでたときもある。
- ・自然の河川につながっていると台風などで攪乱があり泥を持っていてくれるが当園ではそれがないため、汚泥がたまる。
- ・刈り取った後の草の処理が問題（今は土の上においている）。
- ・ヨシは刈っても1年ではすぐに埋まってしまい、手入れが追いつかない。根元から取るほうがよい（台湾の自然公園の事例ではバックホーで毎年耕している）。
- ・水源や泥質の供給など流域の実情にあった整備計画の検討が必要。

## (2)施設内容及び運営・管理について

### 【環境及び利用への工夫・配慮】

- ・(財)日本野鳥の会のレンジャーが常駐しており、団体利用者向けサービスとして「施設概要レクチャー」、「観察会」などを行っている。
- ・観察小屋や観察壁などが設けられており、野鳥を観察できる。観察小屋にはイスが設置されている。
- ・望遠鏡がネイチャーセンター、観察小屋、観察壁に設置されている(無料)。



NPOメンバーによる案内



観察窓



観察小屋



汽水池は潮の出入り調節可能

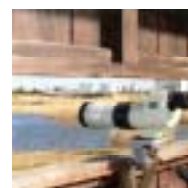
- ・都から管理を委託された(財)東京港埠頭公社より、調査・指導等業務が(財)日本野鳥の会に再委託されている。なお、シルバーガイドと呼ばれる高齢者のボランティア組織、独自の組織であるグリーンボランティアとパートナーシップを結んでいる。
- ・(財)日本野鳥の会により、生物保全管理(池水路管理、湿地維持)、耕作地管理(水田維持、畑維持)を行っている。この他に、除草作業、樹木選定作業が業者により、草刈り、竹林の間伐、ゴミ拾い、下草刈り等がボランティアにより行われている。

### 【問題・課題】

- ・草本の刈り取りは行なっているが、平成8年度に予算がついて行った池の浚渫は、現在は予算確保が難しく実施していない。
- ・潮入りの池はボランティアでヨシを刈っているが、奥の方は泥がたまっているので市民ボランティアでは難しい(事故時の責任や保険、胴長など人数分の道具確保の問題)。今は業者委託で行なっている。
- ・池のヨシが繁茂・拡大し、下層は汚泥が堆積。
- ・池の水源は公園内の降雨のみで、水量確保が難しい。
- ・維持管理用(池の浚渫等)の重機の出入り口がない。
- ・観察小屋に設置した望遠鏡(高額)の盗難被害がある。
- ・維持管理を考慮して計画を検討する必要がある。



調整池はヨシ原で覆われる



望遠鏡は盗難被害がある

### (3)ネイチャーセンターについて

#### 【環境及び利用への工夫・配慮】

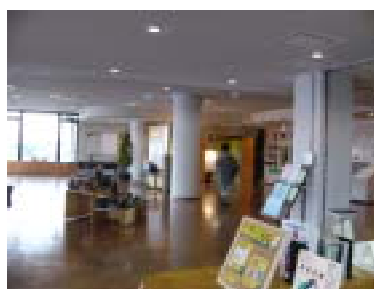
- ・ 野鳥園には、一般利用者や学校等団体が観察・学習できるネイチャーセンター（地上3階、地下1階）があり、自然体験や環境学習の拠点となっており、園内の情報が手に入る。
- ・ センター内は冷暖房完備で、観察室、展示室、視聴覚室、図書コーナー、自動販売機（飲み物）、トイレ（車椅子対応有）などがあり、「潮入りの池」が見わたせる。



ネイチャーセンター外観



展望広場



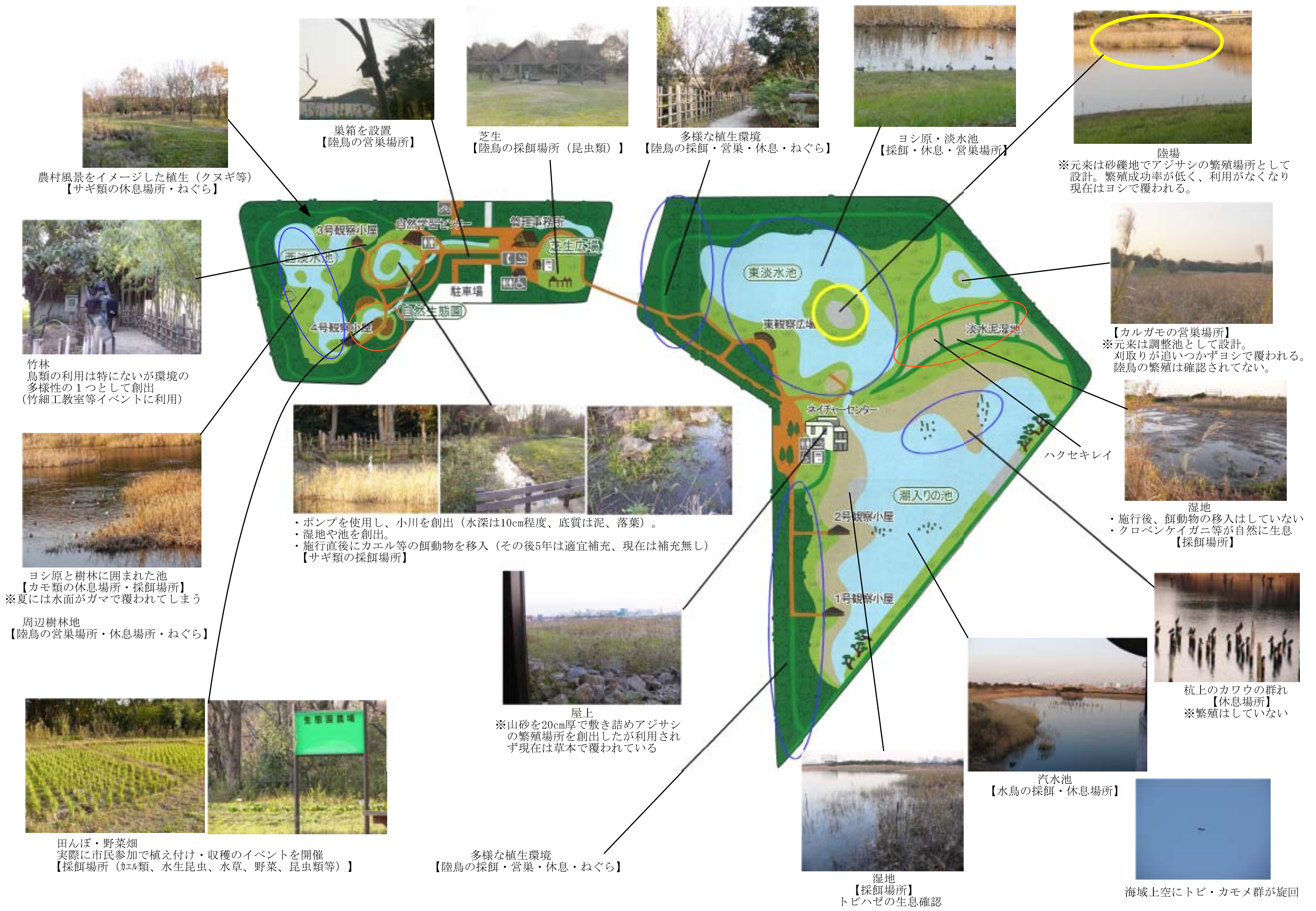
多彩なディスプレイ



情報コーナー



レクチャールーム



農村風景をイメージした植生 (クヌギ等)  
【サギ類の休息場所・ねぐら】

巣箱を設置  
【陸鳥の営巣場所】

芝生  
【陸鳥の採餌場所 (昆虫類)】

多様な植生環境  
【陸鳥の採餌・営巣・休息・ねぐら】

ヨシ原・淡水池  
【採餌・休息・営巣場所】

陸場  
※元来は砂礫地でアジサシの繁殖場所として設計。繁殖成功率が低く、利用がなくなり現在はヨシで覆われる。

【カルガモの営巣場所】  
※元来は調整池として設計。刈取りが追いつかずヨシで覆われる。陸鳥の繁殖は確認されていない。

湿地  
・施行後、餌動物の移入はしていない  
・クロベンケイガニ等が自然に生息  
【採餌場所】

- ・ポンプを使用し、小川を創出 (水深は10cm程度、底質は泥、落葉)。
  - ・湿地や池を創出。
  - ・施行直後にカエル等の餌動物を移入 (その後5年は適宜補充、現在は補充無し)
- 【サギ類の採餌場所】

ヨシ原と樹林に囲まれた池  
【カモ類の休息場所・採餌場所】  
※夏には水面がガマで覆われてしまう

周辺樹林地  
【陸鳥の営巣場所・休息場所・ねぐら】

屋上  
※山砂を20cm厚で敷き詰めアジサシの繁殖場所を創出したが利用されず現在は草本で覆われている

田んぼ・野菜畑  
実際に市民参加で植え付け・収穫のイベントを開催  
【採餌場所 (カエル類、水生昆虫、水草、野菜、昆虫類等)】

多様な植生環境  
【陸鳥の採餌・営巣・休息・ねぐら】

湿地  
【採餌場所】  
トビハゼの生息確認

汽水池  
【水鳥の採餌・休息場所】

海域上空にトビ・カモメ群が旋回

図3 生物確認状況および生息環境状況 (東京港野鳥公園)

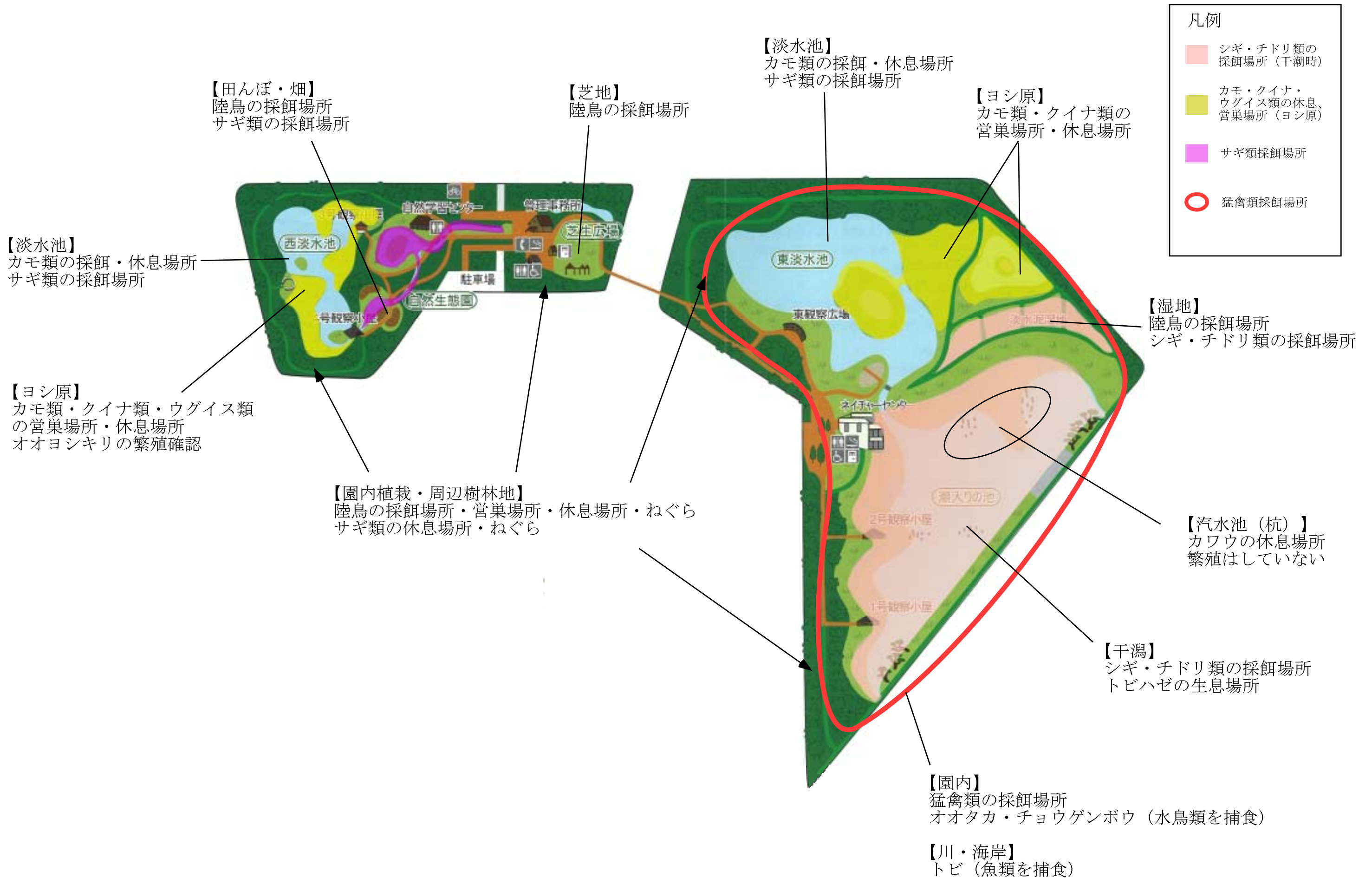


図4 園内での野鳥の利用状況（東京港野鳥公園）